

(2)-カルチャーセンター

「日本人は働きすぎる」とよく言われますが、最近では日本人の生活も変わってきました。確かに、今までは忙しすぎて、毎日の生活や仕事のことしか考えられませんでした。しかし、経済が発展して生活に余裕ができたので、自分自身を高めるために時間を使いたいと思う人が増えました。また、最近では「生涯学習」という考え方が広まり、学校を卒業した後も生きていく間はずっと何かを学び続けたい、と思う人が多くなりました。その結果、カルチャーセンター、公民館、図書館、放送大学など、大人も学べるところが増えてきました。中

でも、カルチャーセンターは、だれでも、いつからでも学ぶことができるので、とても人気があります。

カルチャーセンターの講座の種類は、スポーツ、伝統芸能、料理、語学、音楽、美術、コンピュータなどたくさんあって、利用者は、

自由に好きな講座が選べます。例えば、手芸教室やエアロビクスの

教室などは主婦に人気がありますし、大学で勉強するような日本文学や経済学

の講座が開かれているところもあります。開講時間も、

朝7時ごろから夜9時ごろまでと、いろいろな人が利用しやすくなっています。ですが

ら、昼間は働いている人たちも大勢通っています。OLが出勤前にプールで泳ぐこと

もできるし、サラリーマンが、仕事が終わってから語学の勉強をすることもできます。

また、平日は

ほとんど時間がない人でも、日曜日の講座に参加して、写生に出かけたり、テニス・スクールで汗を流したりすることもできるのです。

その上、カルチャーセンターは、「学ぶ場」と同時に、

「出会いの場」という役割も果たしています。つまり、同じ興味を

持つ人が、老若男女を問わず集まるので、幅広い人間関係を作る

ことができるのです。ここで、新しい友人を得る人もたくさんいます。

カルチャーセンターは、学校と違って必ずしも行く必要は

ありません。しかし、心豊かな人生を送るための一つの手段として、このような場を

上手に利用する人が、これからもますます増えて

いくでしょう。

文章出處： みんなの教材サイト－中級読解

網址：

<https://minnanokyozaei.jp/kyozai/comprehension/middle/home/ja/render.do>